

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500673
法人名	有限会社 うえだ企画
事業所名	グループホーム かやぜの里
所在地	〒856-0014 長崎県大村市田下町473-1 (電話) 0957-55-6796

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月17日	評価確定日	平成21年1月28日

【情報提供票より】(平成20年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	5.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 9,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 牧山医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな環境と近隣の民家に溶け込むように建てられたホームで、近隣にホームの看板を設置してあり、訪問者にとって交通アクセスへの配慮がうかがえる。ホームを訪問し、昼食時の入居者に対する職員の声かけや見守り等の際は笑顔で対応され、入居者のペースも大事に支援されている。しかし、入居者には笑顔はなく、自衛の姿勢が感じられた。管理者・職員等との話し合いの中で、連携がうまくとれないと苦慮し、模索されているようである。職員一人ひとりが、入居者本位のケアに立ち返り、改善すべき課題を見直して、管理者、職員全員が連携を図り、サービスの質の向上を目指すことが望まれる。職員の発した『大好きな入居者が居るので頑張っている』の一言に期待が寄せられる。今後、課題が多大な分、喜びに比例することに期待し、課題を乗り越え、大きな自信と喜びにつながることに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成20年2月7日に前回の外部評価を受けられているが、評価機関・調査員の熱心な気づきも活かされているとは言い難く、今回も前回と同様の気づき事項が多い。今後の継続した取り組みに期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価票作成に取り組み、管理者、ケアマネジャー、主任の3人でまとめられている。主に、取り組みの事実を管理者が担当され、取り組んで行きたい内容をケアマネジャーが担当されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的開催しており、参加メンバーからは積極的な意見・質問など頂かれているが、反映した取り組みにまで至らない部分が多々見受けられる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	外部評価の調査員が訪問しているということもあるのか、職員がそれぞれで独立して業務に携わっている姿勢が垣間見られた。経営者は、職員の安定と育成に試行錯誤されているが、そのことが職員の姿勢・意識に反映されていない。このことは、当該ホームの最大の課題である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩中に近所の人に話しかけたり、近所の方から野菜をもらうなど、日常的な交流がなされている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員と一緒に作られた「明るく 楽しく 自分らしく ありのままに」を理念に、今年1月【地域の中で】を追加されている。更に、11月に管理者の思い・気持ちを込めて【優しく さりげなく 穏やかに】の理念に見直しされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の管理者は今年1月に管理者になられ、11月に一途な思いで理念の見直しをされ、事務所には手書きの基本方針と並列して毛筆の理念が掲げられている。管理者を始め職員一人ひとりが理念の実践に向けた取り組みを具体的に表出する機会作りを提案し理解を示された。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩中に近所の人に話しかけたり、近所の方から野菜をもらうなど、日常的な交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価票作成に取り組んでもらい、管理者、ケアマネジャー、主任の3人でまとめられている。主に、取り組みの事実を管理者が担当され、取り組んでいきたい内容をケアマネジャーが担当されている。前回は、H20年の2月7日に外部評価を受けられている。改善課題であった開設以来の職員の離職率の高さについては、福利厚生面での改善などで、この半年間離職者がいない状態が続いている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催しており参加メンバーからは積極的な意見・質問など頂かれているが、反映した取り組みにまで至らない部分が多々見受けられた。		

グループホーム かやぜの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員より今年度の強化活動指針[認知症を知ってもらい、地域の方々に理解を深めて頂き、在宅でも暮らしていけるような活動を強化していく]を運営推進会議の場で公表いただいている。具体的には、「見守りたい」組織作りや地域の認知症に関する相談所としての取り組みなどであるが、全職員での取り組みとはなっていない。	○	ホーム職員が制約なく取り組める認知症啓発の強化活動がないか市へ問い合わせるなど積極的な姿勢が期待される。現在、【認知症サポーター100万人キャラバン】が県内の市町村で展開されているので職員と地域住民で取り組むなど期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の毎日の様子や健康状態を1ヶ月1ページのA4サイズのシートに、1日1行のエピソードと血圧の範囲や体重、病院受診時の特記事項など、健康報告も上部欄に入居者担当職員によって記入され、翌月に家族に報告されている。又、利用料の支払いを現金払い制度にされているので、最低2ヶ月に1回は支払いも兼ねた面会の支援に繋がられている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の調査員が訪問しているということもあるのか、職員がそれぞれで独立して業務に携わっている姿勢が垣間見られた。経営者は、職員の安定と育成に試行錯誤されているが、そのことが職員の姿勢・意識に反映されていない。このことは、当該ホームの最大の課題である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者は職員を温かい眼差しで見守られている。幾多の困難を乗り越えられた人生の先輩としての視線には憂いと優しさが溢れている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織体制作りがこのホームの最大の課題である。管理者、ケアマネジャー、主任をはじめとする職員が、それぞれの役割・分担を認識し、入居者のケアに取り組むことが望まれる。又、管理者、ケアマネジャー、主任間で【報・連・相】が、時折欠けていることもあるようである。	○	管理者、ケアマネジャー、主任間で【報・連・相】を取り合い、組織体制の強化に努めることに期待したい。また、そのことが入居者との関わり、職員との関わりにも反映されることに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の取り組みで、相互訪問の組み合わせを設定された中で職員のホーム交換体験が実施されており、当該ホーム職員も参加・受け入れされている。		

グループホーム かやぜの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の家庭訪問などで、本人・家族の情報を入手し、本人・家族にホームを見学いただくことにより、ホームの様子や環境などの適応性を判断いただけるように支援し、同時に入居者や職員との相性などの大まかな判断にも活かされており、本人・家族の安心・納得につながる支援を目指されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者に見守られた中で、職務遂行されており、育成されているような場面が垣間見れた。入居者の大きな包容力に支えられている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の行動には本人の思いや意向が表出されており、入居者のペースも大事に支援されている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成につながる書式の充実と書類への記載はされているが、書類が多く、内容が重複していることもあり、全職員にとって分かりやすいと言えない。又、入居者担当職員を決めて介護計画の見直しや作成に反映させる体制作りをされているが、今のところケアマネジャー1人で担われている。	○	個別記録を生活援助と個別援助に分けて、個別援助には介護計画に沿った実践記録、職員の対応、本人の反応、モニタリングなどを記載することで、介護計画の把握や気づきを通して職員の育成にもつながることが期待される。介護計画に基づいた日々の記録が全職員の「気づき」から「つなぎ」へと発展して、利用者本位の介護計画に反映されることが期待される。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター式(利用者自身である私)の記載法で計画書や目標設定、1日の生活プランと支援のあり方などそれぞれの記録書の様式はどれも素晴らしいが、使いこなせていないのが現状である。記録書が「記録のための記録」になってしまい、業務や見直しに活かせるまでには至っておらず、誰が見ても判りやすい記録と言えない。	○	誰が見ても判りやすい職員も使いこなせる書式を検討し、見直しや業務に活かせる記録が期待される。

グループホーム かやぜの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議で【介護保険についての悩みや相談などあれば何時でもご連絡下さい】に対して、民生委員の方から、町内に1人暮らしの高齢者が6人ほどおられ、時々訪問している旨をお伝えいただかれている。	○	民生委員からのサインと受け止められて、ホームの多機能性を地域にも活かした取り組みを検討され、行動されることが望まれる。ホーム行事への参加呼びかけなど身近なことから取り組まれることに期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1人だけ継続したかかりつけ医の受診をされており、殆どの入居者が協力医療機関で受診・往診の対応を受けている。医療連携体制加算の指定を受けており、医療機関への情報提供書類の作成で適切な治療・処置が受けられるよう努められている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケアの指針は作成されており、それを基にホームの方針を近々決められる予定である。職員としてはターミナルまで関わりたい意向を持たれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	強制には至っていないが、注意を促す制止言動を見聞きしたので、いま一度、認知症に対する接遇マナーの周知への取り組みに期待したい。記録物などの取り扱いは慎重にされており、特定の場所で管理・保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当該ホームで、印象に深いのは、エプロンに腕カバー姿の入居者が昼食時に遅れて席に着かれ、最初に席を立たれて居室で絵画制作に没頭されていた姿である。これまでの作品は、ホームの玄関やリビングなどに掲示されており、本人の自信や満足につながる支援でもある。		

グループホーム かやぜの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問した日は、大村の行事食である【大村煮込み】が食卓を彩り、入居者同士顔を見合わせてはうなづきながら食されていた。職員との共有には至っていないのが残念ではある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日の設定はされているが、入居者の希望やタイミングに合わせた支援がされており、身体の清潔保持には留意されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の趣味や特技、これまでの習慣の継続などホーム生活に取り入れた支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出の機会作りと支援を心がけられている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム出入り口のひとつである玄関エントランスは、リビング、台所に面しており、玄関への日中の施錠はなされていない。裏口は、職員が必ず1人は常駐するリビングや台所からは目が届かないためやむなく施錠されている。又、裏口の傍に風呂場があるのでカーブミラーを設置し、風呂場付近の状況把握に努められている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年度の期待したい改善項目のひとつであり、取り組みの実施目標を具体的に挙げられている。継続した取り組みに期待できる。		

グループホーム かやぜの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取カロリーなど専門的な指導を基に、野菜を中心とした食事提供に努められており、地元の美味しい水と米、野菜は生産者である経営者の自慢であり、新鮮、安全な食材は入居者の健康維持に貢献している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問した時期的なことではあるが、廊下に加湿器が設置しており、室内の過乾燥にも配慮されている。常時、職員の目の届かない2階の廊下は1階リビングのモニターで把握されており、1階洗面所から風呂場にかけて目が届かないところには流し台やリビングからでも様子が窺えるようにカーブミラーが違和感なく設置されており、入居者がホーム内を自由に歩き来できる環境づくりに努められている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居者の趣味や個性、心身の状態に合わせて家具等の配置がされており、調度品や縫いぐるみ、人形などの配置などにも人柄が表れている。ベッドに横向きに寝かされた人形の向かい側には入居者が添い寝して起こさないようにベッドを離れた跡があり、本人にとって安全で安心できる場所であることを窺い知ることができる。		